

第2回
沼津港の将来を考える有識者会議

平成27年2月5日
静岡県

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

スケジュール

| 平成26年度 | | | | | | 平成27年度 | | | | | |
|--------|-------------------------------------|------------------------------------|----|--|--|--------|----|----|--|----|----|
| 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
| | ◆第1回 有識者会議 (11/26) ○基本理念・目指す姿の提示 | ◆第1回 策定委員会 (12/1) ○基本理念・目指す姿の確認 | | ◆第2回 策定委員会 (1/14) ○地元意見聴取 ○目指す姿(案)の整理 | ◆第2回 有識者会議 (2/5) ○目指す姿の確定 ○沼津港が発揮すべき機能の確認 | | | | | | |
| | | | | ◆第3回 策定委員会 (2/17) ○機能を最大化する具体的方策検討 ○イメージ図(素案)の作成 | ← 市民意見募集 → ◆第4回 策定委員会 ○将来ビジョン(案) ○イメージ図(案) | | | | | | |
| | | | | | | | | | ◆第3回 有識者会議 ○将来ビジョン策定 | | |
| | | | | | | | | | ◆第5回 策定委員会 ○将来ビジョンに基づく 沼津港振興基本計画策定 | | |

- ◆ 有識者会議
- ◆ 策定委員会

※会議回数は必要に応じて増減する場合あり。

沼津港の将来を考える有識者会議

第1回 (H26.11.26)

- 「基本理念・目指す姿」を提示
- 策定委員会に計画の検討を依頼

第2回 (H27.2.5)

- 将来像（目指す姿）確定
- 沼津港が発揮すべき機能の確認

第3回

- 将来ビジョンの確定

沼津港振興基本計画の構成 (案)

- 基本理念
 - 目指す姿
 - イメージ図
 - 具体的方策・整備計画 等
- 将来ビジョン

沼津港振興基本計画策定委員会

第1回 (H26.12.1)

第2回 (H27.1.14)

- 地元意見を聴取
- 将来像（目指す姿）(案)

第3回 (H27.2.17予定)

第4回

- 機能を最大化する具体的方策検討
- イメージ図(案)の作成・提案

第5回

- 沼津港振興基本計画の策定

依頼

報告

依頼

報告
提案

依頼

第2回策定委員会
委員長からの報告
(地元代表者の発表とりまとめ)

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

地元代表者意見発表 概要

沼津港を舞台に地元で活躍する若い世代の代表者4名に意見発表していただいた。

金子 綾さん (有)ブレインチャイルド 観光情報発信アドバイザー

【活動】

自身がガイドを務め、沼津駅-市街地-香貫山-沼津港をめぐるウォーキングツアーを月1~2回(計25回)主催。

【沼津港の魅力】

◇買い物(干物等) ◇食事◇水族館

【課題】

◇市街地の空洞化◇乏しい回遊性◇適切な情報発信が不足◇市民が良さを分かっていない

【展望】

◇明確なコンセプトやキャッチフレーズ◇ソフトの充実(人材育成、情報発信) ◇企業間の連携

【キーワード】

◇市民の口からも沼津港と言えればこれなんだよという胸を張って言える独自性

◇ハード面に関して言うと、観光客に媚びた作りにはしないでほしい

◇地元の良さを市民自体も分かってほしい

小松 浩二さん REFS(有機野菜店)代表

【活動】

「Proud NUMAZU」を合言葉に、様々な取り組みを企画。ブログサイト「沼津ジャーナル」による情報発信。

【沼津港の魅力】

◇山、海、川もあって面白い ◇地域を見つめることで分かってくる魅力◇日本一高い富士山、日本一深い駿河湾◇伊豆の山(天城)と海をつなぐ狩野川

【課題】

◇市民が抱く閉塞感◇港の活気と市街地の寂しさのギャップ◇観光客が多いから港へは行かない

【展望】

◇地域住民の食の台所◇「沼津野菜」の販売◇人と人の交流の場◇周辺エリアの動線を考慮した拠点

◇体験コンテンツの常設化

【キーワード】

◇地域を体感できる場◇美食のまち沼津の入口◇日本一を感じ、味わえ、愉しめる場所◇周辺との連動・連携

小森 裕之さん 沼津グランドホテル 専務取締役 ※当日は急用により欠席。メッセージを事務局代読。

【活動】

沼津港のせり見学ツアーに参画。沼津ホテル旅館協同組合専務理事。沼津市旅館ホテル組合連合会理事。

【沼津港の魅力】

◇なんととっても「食」 ◇集中している飲食店 ◇漁港の風景、疑似体験 ◇西伊豆方面への海の玄関口

【課題】

◇駐車場不足 ◇行政－民間・民間同士の連携不足

【展望】

◇港の魅力（市場の活気、漁港らしい水面）を活かした整備 ◇海上交通を活用した周辺との連携

【キーワード】

◇美味しい、楽しい、また来たい◇沼津だけよければと言う考えはない◇ここを出発点とした伊豆半島の活性

佐藤 慎一郎さん 佐政水産株式会社 専務取締役

【活動】

深海水族館、港八十三番地の営業・プロデュース。深海魚、地場産品利活用の推進。

【沼津港の魅力】

◇富士山・箱根・伊豆等世界有数の観光地に囲まれた立地条件 ◇温暖な気候、日本一深い駿河湾、一級河川の狩野川、富士山等の豊富な自然環境 ◇豊富な魚介類 ◇交通の便の良さ

【課題】

◇沼津市としての観光交流人口の減少 ◇車以外の交通手段が不足 ◇市街地との温度差・連携不足 ◇港で行われるイベントの少なさ ◇伊豆方面との連携不足

【展望】

◇まずは地元をターゲット ◇内港水面開発（海中トンネル、海中カフェ、ポンテベッキオ風回廊、噴水、ライトアップ、釣堀、人工藻場 等）◇食材を活かした洋食への展開 ◇ケーブルカー等による駅との連携 ◇外港への大型客船の誘致

【キーワード】

◇50年後、100年後に名所になっているような場所 ◇長期的な視点で魅力や雇用を創出して、地域の住民とも連携してやっていけるような場所 ◇地元の人にも愛される話題性のある美しい港町 ◇一生記憶に残る港町 ◇地元の人々が来たくなる場所 ◇働きがいのある港

意見の分類と集約

各代表者の発表、発表に対する委員の発言の中から、
鍵となる言葉を抽出し、以下のカテゴリーに分類・集約した。

1. 沼津港に求めるもの
 - 1-1 地元の誇り
 - 1-2 沼津港らしさ
 - 1-3 港発の地域活性
 - 1-4 周辺との連続性・つながり
2. 沼津港の魅力
 - 2-1 「食」
 - 2-2 「漁港・市場」
 - 2-3 「景観」
3. 必要な機能・取組

1. 沼津港に求めるもの

1-1 地元の誇り

- ▶ 「私、沼津に住んでいて本当に良かった」と言ってくれた
- ▶ 「沼津にこんなに良い所がたくさんあったんだね」と言ってもらえる
- ▶ その魅力を地元の人はまだまだ理解できていない
- ▶ 地元の良さを市民自体も分かってほしい
- ▶ 地域の魅力を見つめたい
- ▶ やはり沼津も面白い・沼津はいろいろある
- ▶ 沼津の誇り「Proud NUMAZU」
- ▶ 地元の人に来たくなる場所。
- ▶ 知り合いに自慢できる場所。
- ▶ お客さんも楽しんで、地元の方も積極的に楽しめる
- ▶ 来訪者が「面白かったよ」と言えば、地元の人もその良さに気付いく
- ▶ 地元の人に来てくれるような施設なら、観光客も絶対に喜んでもらえる
- ▶ 観光客に人気があるだけでなく、地元の人にも愛される話題性のある美しい港町
- ▶ 地元の人たちが本当にいいと思って、日常的に来てくれるような活気があることがすごく重要
- ▶ そこを愛して、住んで、楽しくやって、かつ仲間がいて、やる気がある人に引っ張られ町ができていく
- ▶ 日ごろから住んでいて、この地域がいいと思っている人であれば、必ずその良さを人に伝えられる
- ▶ 本当に沼津を誇れるような町にしたい。そのシンボルとして沼津港を考えたい。

地元住民が愛し、誇りに思う、身近な沼津港。

1-2 沼津港らしさ

- ▶ 市民の口からも沼津港と言えばこれなんだよという、胸を張って言える独自性がほしい
- ▶ 「沼津港と言えば〇〇」というコンセプト、それに合ったキャッチフレーズが必要
- ▶ 沼津はどこを目指すのか、沼津らしさは何なのか、沼津はなぜ選ばれているのかをしっかりと見極めたい
- ▶ 日本一を感じ、味わえ、愉しめる場所
- ▶ 来る人は沼津港の良さを味わいに来ている
- ▶ 沼津が日本一になる沼津らしさ
- ▶ 沼津市という価値を大事にしていこう

**沼津らしさ、沼津港らしさ。
他にはない沼津港の魅力を
追及したい。**

1-3 港発の地域活性

- ▶ 同じ目標を持つ沼津の企業や沼津の団体の方がいらっしゃったら、一緒に歩んでいきたい
- ▶ 沼津港の方々はたゆまぬ努力をして、あんなにも人を集めているが、街にはそれが足りない
- ▶ もう少し人と人の交流の場があってもいいような気がします
- ▶ 行政・民間、あるいは民間同士の連携が薄かった
- ▶ それぞれが知恵を持っており、コラボレーションすることで相乗効果につながる
- ▶ 長期的な視点で魅力や雇用を創出して、地域の住民とも連携してやっていけるような場所にしたい
- ▶ 雇用も増やして、沼津に働きがいのある港をつくる。若い人がもっとここで仕事をしたくなる。
- ▶ 皆さんが楽しく働ける、働きがいのある港がここにあるべき
- ▶ 今の賑わいを進化して、他にはない、住めるし、働けるし、活気のある場所になっていくといい
- ▶ 地域活性は人材を高めることから始まる。

「働きがいのある港」が地域を元気にする。

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

1-4 周辺との連続性・つながり

- ▶ 沼津らしさは市街地にも同じハーモニーを織りなしてもらいたい
- ▶ 観光客が市内を循環できるように整えて、地元にもお金が落ちる仕組みが必要
- ▶ 駅と港を結ぶツールが必要
- ▶ 港を起点として、町に来てもらう
- ▶ 周辺エリアの動線を意識した拠点
- ▶ 海の玄関口
- ▶ 新たな船を使った連携を考えていきたい
- ▶ 沼津港を着地型観光の拠点として、ここを出発点として、西伊豆はじめ伊豆半島の活性化につなげる
- ▶ この地域は日本一高い富士山があり、日本一深い湾があり、そこをつなぐ場所が沼津港
- ▶ 山もあって、海もあって、川もあって面白い
- ▶ 天城の山と港をつないでいる狩野川の上流から下流の流れ
- ▶ 日本一深い駿河湾に面し、豊富な魚介類も水揚げされて、一級河川の狩野川も流れて、富士山が楽しめる

**市街地との連携に加え、
西伊豆との“海のつながり”
天城との“川のつながり”も大切にしたい。**

2. 沼津港の魅力

2-1 「食」

【現在は魚をメインとした食事が魅力】

- ▶ 沼津港の魅力は何と言っても「食」
- ▶ 知れば知るほど沼津港はおいしい食事がある
- ▶ 観光客はやはり安くて、おいしくて、新鮮なものが食べられるということが、沼津港に来てもらえる要素
- ▶ 美食のまち、沼津の入り口
- ▶ 「おいしい食事はありますか」「干物はどこで買えますか」「名産は何ですか」という質問が飛び交う

【魚以外の食材にも目を向けた新たな展開】

- ▶ もっと台所のような、海外の市のような、ああいった形であるともっと雰囲気も良くなるのだろう
- ▶ オーガニックは野菜だけで終わっておくべきではない
- ▶ 魚粕を肥料に野菜を育て、その野菜を港で売る
- ▶ 地域の食の循環を見つめたい
- ▶ 野菜の販売ももっとしてもいいのかな
- ▶ 地元住民の食の台所

これまで培った沼津独自の
「食」の魅力を高め、地場の
野菜や洋食へも展開。

【和食に限定しない多様なニーズへの対応が必要】

- ▶ 実際ここで和食の店を何十店も増やしても、競合してしまうだけ
- ▶ 静岡の食材というのは和食だけではなくて、どんな食材にも合う
- ▶ 駿河湾の食材、静岡の食材は、別に和食にしか合わないわけではなくて、イタリアンでも中華でもいい。
- ▶ 食材を余すことなくエコに食べるというところに文化があるのかもしれない
- ▶ 食を活かした健康づくり

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

2-2 「漁港・市場」

- ▶ 非現実を体験（漁港・市場・せり）できるというのが沼津港の魅力
- ▶ 家業も100年続いている。これからもやっていかなければいけない
- ▶ 第一市場の所。今一番ここが港らしい。
- ▶ 朝市などもやる魚市場をきちんと残す。
- ▶ 沼津というのは駿河湾で一番魚種の揚がる港
- ▶ 沼津港は掘込港で、すごく長い歴史があります
- ▶ 長い歴史の中、民間主導でここまで頑張ってきた。それが歴史だと思う
- ▶ 沼津港の良さは、朝市や競りの場、漁船が見えて活躍していたりすること
- ▶ 自然の中に囲まれた水産業がいきいき生きる
- ▶ 朝市で活躍する人たちの光景の方が沼津に合っている

**港町、魚の町としての
歴史と営みが最大の魅力。**

2-3 「景観」

- ▶ 第一市場から水面越しに見る富士山はすごくきれい
- ▶ 掘込港湾で、素晴らしいスケール感の港
- ▶ 空間をいかに生かしていくか
- ▶ 自然と調和型の港
- ▶ 日本の景勝地である
- ▶ 広がりのある空間を提供してもらいたい
- ▶ 富士山と駿河湾と千本松原の全部を眺めることができる非常に素晴らしいスポット
- ▶ 「びゅうお」から見ると富士山がきれいに見える
- ▶ 写真スポットを作る

**恵まれた景観資源を最大限に
活用する。
自然と調和した港。**

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

3. 必要な機能・取組

【ソフト面の充実】

- ▶ 来訪者がリピートする仕組みづくり（松などの記念植樹、タイムカプセル等）
- ▶ 姉妹都市や内陸県との交流
- ▶ 沼津港のソフト面の充実に役立ちたい
- ▶ コンシェルジュ機能があるとよい
- ▶ 「水産祭」はすごい。1年に1回ではなくて、常時できるプログラムがあってもいい。
- ▶ 適切な情報発信が必要
- ▶ 自由な場を提供し、何か生み出すような人たちが集まってきて活気があれば、人が見ようが見まいがいい
- ▶ クラフト系の方やものづくりをしている方が活動する場があってもいい

【今あるものを活用する工夫】

- ▶ 今あるものを生かす。歴史、地域を知るというきっかけにもなる。
- ▶ 海運倉庫をリノベーション
- ▶ もっと港口公園を使い、ここに子供も呼びながら買い物ができる場とする

【ハード整備による魅力創出】

- ▶ 一番目立つところにコンシェルジュ機能がウェルカムする
- ▶ 沼津の文化でもある干物に加工するような地場産業の体験館
- ▶ 沼津というのは伊豆の入り口。伊豆の物産、おみやげを購入できる「伊豆マルシェ」をつくる。
- ▶ 一度見たときに沼津が素晴らしいと思えるような物がここにあり、さらに他にはないというものを造りたい
- ▶ 海の遊び場ゾーンを設けて、海の中を体験でき、カヌーやボートで子供も遊べるようなエリアも設けたい
- ▶ 海中トンネル、海中カフェで海の中、駿河湾を再現
- ▶ 外港に旅客ターミナルを整備して、大型フェリーを呼ぶ。

ソフト・ハード両面で多様な提案。

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

1. 将来像（目指す姿）の確定
2. 沼津港が発揮すべき機能
3. 策定委員会への依頼事項
 - ①方策を計画に落とし込む視点
 - ②方策を展開する場

【沼津港の果たす役割】

沼津港が公共空間として長期に亘り魅力を発揮し、地域の人々が憩うとともに、沼津市はもとより県東部・伊豆地域の発展の核となる。



10年後
20年後

将来像(目指す姿)の(案) 策定委員会とりまとめ

- ここにしかない沼津港の魅力（「食」、「港町・市場」、「景観」）が最大限に発揮されている
- 地域住民が愛し、誇りを持って集う場となっている
- 港の活力が中心市街地、西伊豆地域、中伊豆地域へとつながっている

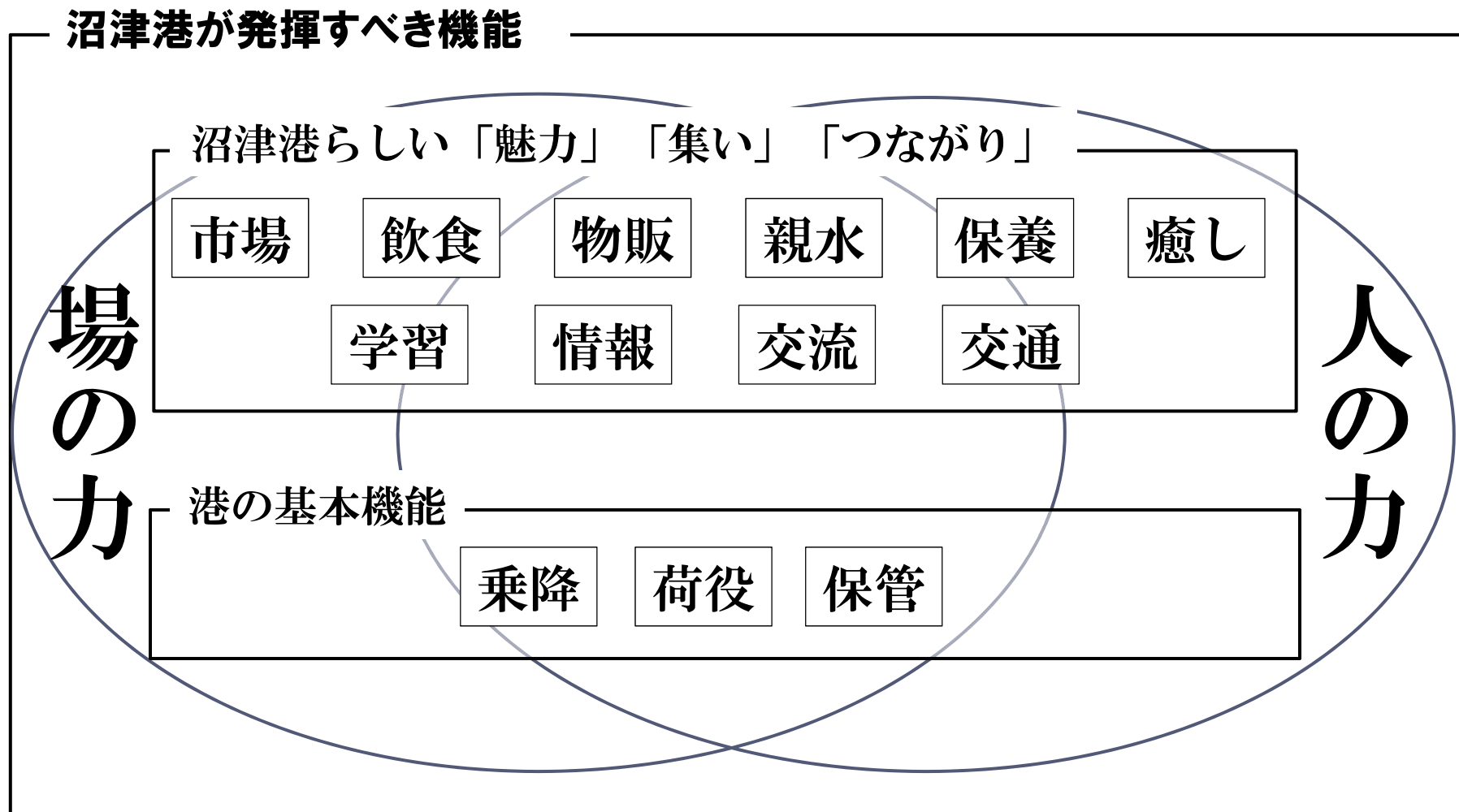
キャッチコピー（案）

本物の味、風景がいざなう沼津港

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

沼津港が発揮すべき機能の考え方



方策を計画に落とし込む視点

機能を最大限に発揮する方策（例）

I 魅力 (食)

- 駿河湾の豊富な海産物を駆使した沼津独自の「食」の魅力を高めつつ、海産物に限らない地場の良質な食材も提供し、素材を活かした多様なジャンルの料理への展開など、本物志向・健康志向のニーズに応えていく。

(市場)

- 歴史ある漁港の核となる市場を維持し、市場で活躍する人たちの場を将来に亘り確保していく。

(風景)

- 内港から眺める富士山と牧水らが愛した千本松原の借景を最大限に活かし、自然と調和した港町の風景を演出する。

II 集う

- 地元の人が集い、楽しむ場を用意し、人々が自主的な活動を行うことを支援する。

III つながる

- 港の魅力に加え、中心市街地、西伊豆地域や中伊豆地域の魅力を一体的に提供するコンシェルジュを用意し、アンテナショップ等の運営を委ねる。

食

高める

導入する

市場

高める

景観

高める

補う

集う

導入する

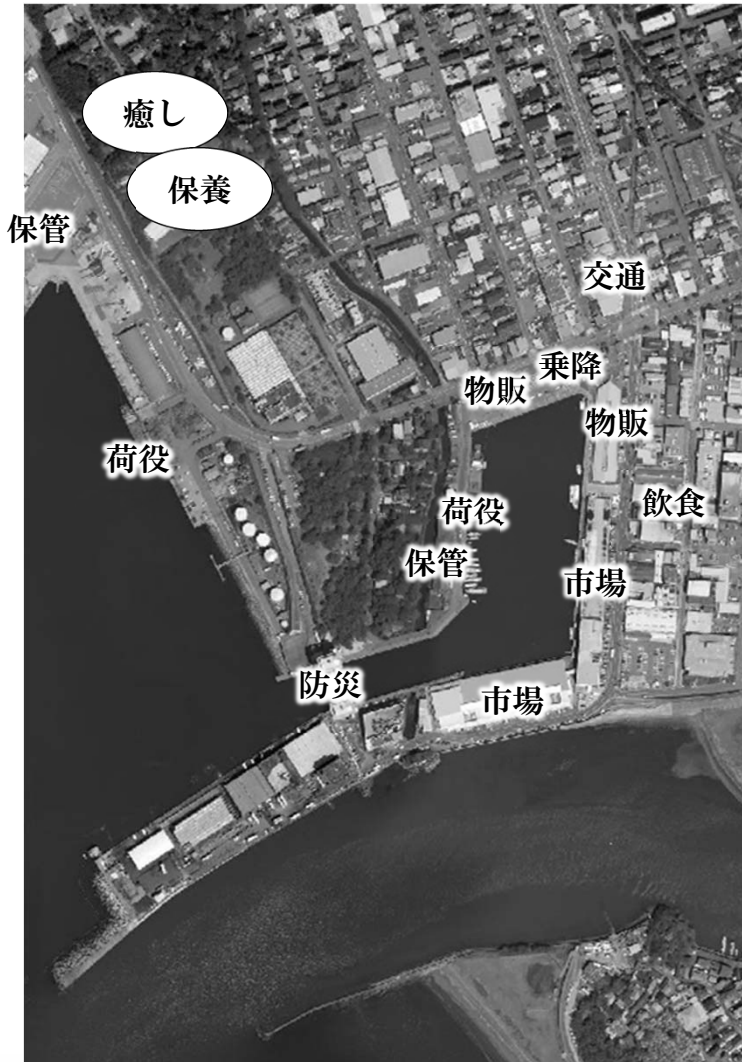
つながる

補う

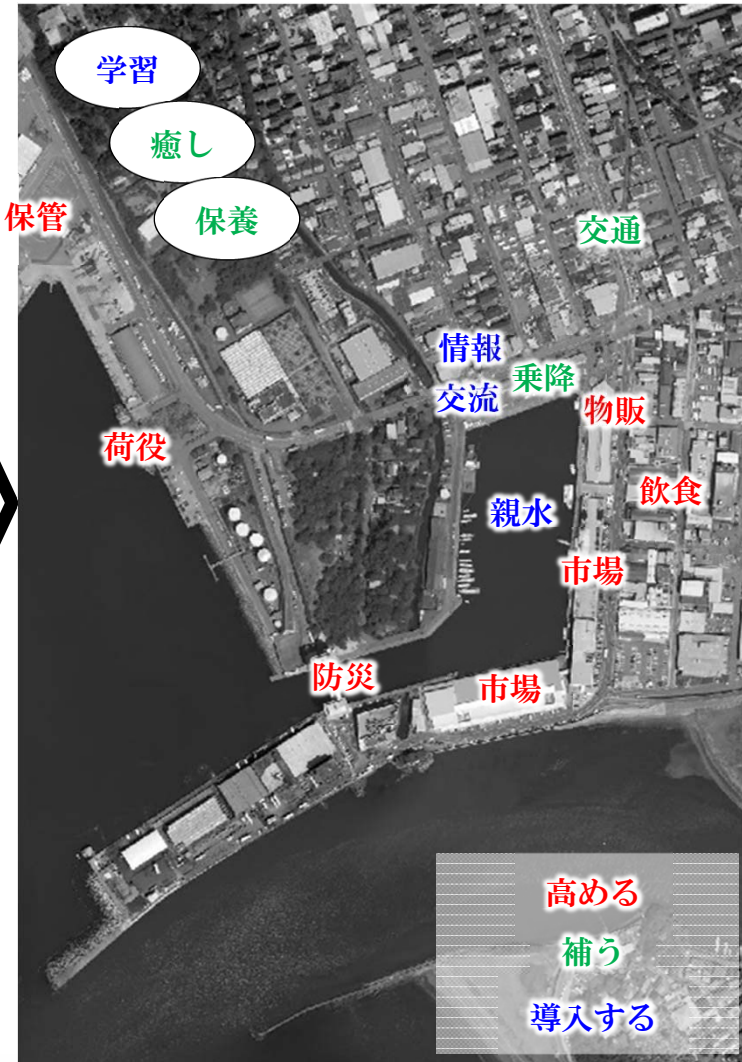
導入する

方策を展開する場

現状



再編 (案)



◎整合性
◎連続性
◎一体性